

第13回 ル・クール・ド

★ 新春ピアノコンサート ★

早瀬クラス ピアノ研究会

ル・クール・ド…フランス語で「早瀬・川の流れ」の意味

1 長谷部 沙恵

献呈 / シューマン=リスト

2 小高 明香

ユモレスク op.6 第1曲第4曲 / グリーグ

3 平野 玲美

バラード 第3番 / ショパン

4 甲斐田 睦(アコーディオン) & 浅野 舞里子(ピアノ)

ティコティコ / アヴレウ

5 山口 由里子

ピアノ・ソナタ 第8番(悲愴) 第2楽章 / ベートーヴェン


6 右納 ゆかり

華麗なる大ワルツ op.18 / ショパン

とき：令和3年1月9日(土) 10:30 開演

ところ：カワイ名古屋コンサートサロン「ブーレ」

主催：ル・クール・ド コンセール泉 / 後援：名古屋芸術大学



プログラム・ノート

献呈

この曲は、シューマンが作曲した、歌曲集《ミルテの花》の第1曲「献呈 Widmung」をリストがピアノ独奏用に編曲したものです。ミルテという花は、夏に咲く白い花で、5枚の花びらと長いおしべをもちます。昔から結婚式のブーケや花嫁の装飾などに使われるなど、結婚、不滅の愛などと強く結びついていて、音楽に登場する場合も結婚と関係のある作品が多いです。シューマンは、この《ミルテの花》を、1840年9月12日、妻クララとの結婚式の前日に「愛する花嫁へ」と書いて彼女に捧げています。

「献呈」は、ドイツの詩人リュッケルトの詩に基づいて作曲されたもので、愛する人への愛が詰まった曲です。これをリストが編曲したことで、美しい愛のメロディと華やかさが一体となり、現在でも多くの人に演奏され親しまれています。

ユモレスク op.6

ノルウェーを代表する作曲家グリーグの23歳の時の作品。
「ユモレスク」は、ユーモアという語に派生する名称で、こっけい味を帯びた自由な形式の性格的小品を指します。グリーグはこの曲でノルウェーの民族音楽から着想を得た独自の作品を創り出す事に成功しました。

バラード 第3番

1840年に作曲された円熟期の作品。バラードは物語的な構成になっており、1曲の中で起承転結を感じることができます。ショパンは4つのバラードを書いています。その中で唯一長調で終わる作品であり、全体を通して軽やかさと余裕に満ちた華やかな雰囲気をもっています。

ティコティコ

Tico-Tico とはポルトガル語でスズメ、Fuba はトウモロコシや米の粉という意味で、直訳すると「粉をついばむスズメ」となります。1940年代に、アメリカに進出したブラジル人歌手、カルメン・ミランダが映画「コパカバーナの中で歌い、世界中で知られるようになりました。この曲はショーロと呼ばれるブラジルのポピュラー音楽のスタイルの代表的作品です。

ピアノ・ソナタ 第8番 (悲愴)

28歳の頃作曲されたこの曲は、珍しく本人が標題を付けたと言われています。難聴の兆しがある中、本当の悲愴感では無く、この運命に打ち勝つという決意の表れとして、「悲愴」が生まれたような気がします。

華麗なる大ワルツ op.18

1834年にショパンによって出版された最初のワルツ。後に夢見るようなうっとりさせる“一組”のカップルのためのワルツ音形を作り出しましたが、この曲ではまだ、舞踏会場の極めて幸せな軽やかな活気のある“数組”のカップルのためのワルツです。